The Entomological Society of Japan

1♀ Moriyama, Nagoya, 27. VII. 1951. leg. I. Matsui (Allotype)

1♀ Tokyo, 14. IX. 1950. leg. Y. Yoshida

For this interesting Gomphid I am indebted to Messrs. I. Matsui, Y. Yamamoto and Y. Yoshida to whom I must express my sincerer thanks.

（資料）

オオニジユウヤホシテントウについてのメモふたつ

坂 上 昭 一

Shoichi F. Sakagami: Miscellaneous notes on *Epilachna vigintioctomaculata*

1．オオニジユウヤホシテントウは，各種農作物の害蟲として知られ，ことに成蟲は極めて多食性の昆蟲であり，科を異にする多くの植物を加害する．私は 1945 年夏，北大農學部裏の路傍に栽培されたトウモロコシの實に本種があつまつて居るのをみつけた．その實はすでに半ば成熟してかなりかたくなつていたものだが，その外皮の1部をくいやぶり，12匹の成蟲が約 2cm 平方にわたつて，種子をくいつくしていた．葉部以外では本種は札幌においてカボチヤの花をこのんで喰害するが，トウモロコシの實を喰うことはまだ聞かないので，こゝに報告しておく．

2．テントウムシ類の成蟲越冬は大群をなして一定箇所にあつまるものが多く，例えば札幌ではナミテントウが毎年市の南西藻岩山のふもとにある納骨堂にあつまつて越冬する．しかしオオニジユウヤホシは一般にかゝる形式をとらず，樹皮の下，草の根元などに單獨又は3～4匹があつまつて越冬することが多い．しかし前屬に近い型ともみられるものを私は 1946 年冬にみつけた．場所は北大農學部4階屋上のドアの外側で，北向のほとんど一日中日のあたらぬ所であり，下はコンクリートであつた．この一隅に 56 匹のオオニジユウヤホシがあつまつているのを 10 月 26 日にみつけた．すでにかなり寒さの加わつた時で，蟲はほとんど不動の狀態にあり，之にヒメカメノコテントウ1匹，ゾウリムシ6匹，及びキノコバエの1種1匹が加わつて一つの越冬群聚をつくつていた．のちに 12 月2日すでに半ば雪にうずもれた時みた時にはオオニジユウヤホシは 32 匹に減じ，他の蟲はゾウムシ以外見られなかつたので，その間に別な所に移動したものと思われる．その後の經過を記錄して居ないので，翌春まで，かゝる狀態をたもつていたのかどうか，殘念ながらわからなかつた．

〔北海道大學理學部動物學教室〕

NII-Electronic Library Service